

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290500061		
法人名	一般社団法人 のどか		
事業所名	グループホーム のどかの家 熱海 花ユニット		
所在地	静岡県熱海市泉415-169		
自己評価作成日	平成28年3月5日	評価結果市町村受理日	平成28年5月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・施設に入る前の暮らしや習慣や楽しみなどが続けられるような環境づくりを心掛け、自分らしく暮らせるよう支援している。 ・勉強会の年間計画を立て毎月職員が二人一組となって担当し、質の向上に努めている。 ・2ヶ月に1回の運営推進会議では近所の方の出席が多く、日頃の運営にも協力的である。 ・地域の行事や活動に積極的に参加し、地域の方との交流を大切にしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域の行事に積極的に出かけることで、地域の方は運営推進会議に参加してくれ、利用者の外出を見守り、何かあった時には積極的に手助けをしてくれるなどの協力関係ができています。運営推進会議に行政・包括・地域住民・職員・利用者の参加を得て定期的に行われ、事業所の現状や課題を明らかにし、意見を議事録にして職員や家族に渡し、運営に活かしている。外部評価の自己評価を全職員が参加して記入するなど管理者や職員は学習意欲が高く、事業所内や会社の研修も盛んに開催している。利用者の希望や思いを大切に、「そつとよりそい共に寄り添う」ように穏やかに毎日を過ごせるように支援している。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成28年 4月 5日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念はいつでも確認出来るようリビングに掲げ共有している。「食事・入浴・排泄」について具現化したマニフェストがあり実践につなげている。	理念は、介護、支援方法で迷いが生じた時等理念を確認し立ち戻っている。理念に基づいた月間目標があり、会議で評価して実践に役立たせている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には近所の方も参加して下さり利用者の状況を把握して頂いている。また、積極的に地域の行事や活動に参加している。	地域の方は利用者の方を気にかけてくれていて、散歩で歩けなくなった入居者を送ってくれる等協力的である。地域の防災訓練には利用者2人と職員が参加し、土嚢作り・テント張り・放水訓練の見学や避難食を頂いている。ボランティアが定期的に来てくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトの職員による「認知症サポーター養成講座」を地域の小学生向けに実践している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、事故報告や研修報告を行う他、利用者の日常の様子や行事の様子等をスライドショーにまとめ報告している。また、その場での意見をサービス向上に活かしている。	会議は参加しやすい日時の設定をしている。近況や事故報告等解りやすいデータを添付している。議事録は家族に郵送し、職員にも回覧している。地域の方が、「外に出る時には笛を持って行く方が良い」等の意見が出て、サービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらっており、施設の状態を報告している。生活保護受給者の担当者には毎月の手紙と新聞を届け利用者の様子を伝えている。	認知症サポーター養成講座を包括と一緒に、夏休みに福祉ジュニアスクールとして開催したり協力体制ができています。運営推進会議に、毎回包括と行政職員の2人が参加してくれ意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催し身体拘束について正しく理解し玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる。また、言葉による拘束についても理解し「NGワード」を設定することにより意識している。	新任職員へは法人での研修を実施し、その後1・2・3年目研修を行い、身体拘束について理解を深めている。一人で外へ出る利用者に1・2階職員の連携を図り、すぐに対応できるよう携帯電話を玄関に置いている。	

静岡県(のどかの家熱海 花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開催し高齢者虐待について理解を深め未然に防ぐよう努めている。また、虐待防止マニュアルを施設に設置し周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を開催し制度に関する理解や学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者や家族の不安や疑問点を伺いながら十分な説明を行い理解・納得された上で締結している。要望があれば予め契約書を送り、目を通して頂くことも行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所に相談窓口・意見箱を設けて常時要望に応える体制をとっている。また2ヶ月に1回の運営推進会議にて地域の方にも意見を伺い運営に反映させている。	利用者からは日々の会話の中から要望を聞いている。「熱海の花火」の要望に職員が同行し実現している。家族から「歌が好きなので、歌番組を見せてほしい」と要望があり意見を反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議にて職員の意見や提案を管理者に伝えている。管理者は月1回の管理者会議にて代表者に伝えることが出来る。また、職員相談用メールを設置して発言しやすい環境を整えている。	会議では職員から意見を聞く機会があり、出た意見は実践につなげるように話し合っている。日頃から社長・管理者や先輩職員に意見が言い易い環境を心がけている。遠方の人や交通機関利用者の時間帯に合わせた無理のないシフトが施設内で柔軟に決められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社としてキャリアパス、人事考課制度を導入して管理者や職員個々の努力、実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働ける環境整備に努めている。また、産休育休の取得及び職場復帰などを積極的に推奨している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の研修施設にて入社時研修、2年目研修、管理職研修とキャリアに合わせた研修を実施。また、eラーニングを取り入れ職員一人ひとりのトレーニングを実施している。		

静岡県(のどかの家熱海 花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、協会主催の研修等に参加している。また、地域の事業所連絡会に参加して情報交換等を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には管理者や計画作成担当者が本人と面談して、不安なことや要望等を伺いながら本人に安心して頂けるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には管理者や計画作成担当者が家族と面談して、不安なことや要望等を伺い安心して頂けるような関係づくりを心掛け、要望には可能な限り応えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前情報を確認し必要であれば本人、家族に再度確認をとりながら、本人の希望していることを見極め、その方に合ったサービスを提供出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は共同生活、集団生活を意識して生活に必要な掃除、洗濯をはじめ本人が無理なく出来る役割を持って頂けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には本人との昔の楽しい思い出などを伺い、本人とのコミュニケーションに活かしている。面会の時には本人と家族が一緒に写真を撮り居室に飾るなどして絆を大切にしている。また、家族の存在が本人にとって一番であると伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人との面会や外出はいつでも出来るようにし、手紙や電話の希望があれば対応している。馴染みの場所に行きたいという希望があれば可能な限り対応できる環境にあり、本人が馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	友人の家に行く、馴染みの喫茶店に出かけるなどの支援をしている。納得ないまま入居された利用者を自宅まで何度も通い、納得してホームで生活してもらえるようになった。家族と外食を楽しまれる利用者の体調管理に気をつけ、関係継続を支援している。	

静岡県(のどかの家熱海 花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	団樂の場所を提供し談笑されたり、共同作品を作る機会を提供する等、様々な場できっかけ作りをしている。また、生活の中で利用者同士で家事を行ったり、外出する支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、入所中に撮った写真をお渡ししている。その後は特に必要がなければこちらからの取組みはないが、本人・家族からの相談等あれば対応する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントのみではなく、日頃の会話や様子の変化等にも気を配りその方の希望や意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	フェイスシートを見て本人が落ち着いて暮らせるように職員が柔軟に支援している。困難者には、話し方や表情を観察して利用者が何を欲しているのかを検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には本人や家族と面談し、その方の生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等情報を得るようにしている。これまでのサービス利用の経過については担当ケアマネに情報提供を依頼し把握している。入居後も分からない事があればその都度相談している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりに担当の職員がおり、カンファレンス等で状況を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に希望や要望等を伺い必要時には主治医や看護師の意見も聞いて担当者会議で共有し、本人・家族の希望を取り入れた介護計画書を作成している。	利用者の担当職員が希望を聞いている。カンファレンス会議ではその職員が主になって話をすすめ、本人、家族の要望を踏まえ、意見を参考に主治医や看護師の意見を聞いて介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や日報、申し送りにて日々の様子や状況の変化について共有しケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		

静岡県(のどかの家熱海 花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診とは別に受診の希望のある方、入院されている家族への面会、知人宅へ遊びに行きたい、毎日歩きたい等、本人の「○○したい」に柔軟に応えられるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や活動に参加し地域の方との関わりを持っている。また、2ヶ月に1回の運営推進会議に地域の方へ出席して頂き、施設や利用者について理解して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の全員往診のほか個別往診がほぼ毎日ある為、医師が訪問しておりいつでも相談できる環境にある。皮膚科も必要に応じて対応している。緊急時にはオンコール対応により指示を仰いでいる。また、毎月の往診・受診報告を家族に手紙と一緒に送っている。	かかりつけ医は、入居時往診がある等のメリットから協力医に変更されるケースが多い。月2回各階ごとの往診があり、24時間オンコールで対応してくれる。また、訪問歯科と皮ふ科の往診もある。他科受診は看護師が同行し、家族には受診記録を送っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を週1回配置し健康管理を行っている。看護記録にて介護職員との情報の共有を行い、急な体調変化が起きた際も看護師に連絡し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	着替えの交換などで面会に行き、本人の状態の把握に努め安心して治療できるよう、早期退院できるよう支援している。また、退院後の生活について相談等行い施設に戻られても安心した生活が送れるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期について施設の指針を説明し同意を得ている。状態の変化に応じて主治医より本人、家族への説明を行った上で職員や関係者で終末期に向けた方針を決め取り組んでいる。	入居時に終末期の方針を説明し同意書をとっている。利用者の状態を医師が判断し、終末期の方針を家族と話し合っている。酸素吸入や点滴をする方もおり、昨年、看取りを経験し職員は研修の成果もあり冷静に対応することができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを常備しており、いつでも確認できる。防災訓練や勉強会を通して職員のスキルアップを図っている。また、職員は個々に救急救命講習に参加しフィードバックしている。		

静岡県(のどかの家熱海 花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施し参加できなかった職員に対しては報告書にて把握している。また近所の方にも訓練に参加して頂いたり、地域の訓練にも参加している。	年2回の訓練の他に話し合いやシミュレーションをし、マニュアルも整備されている。避難場所は一次が入り口、二次は外の駐車場となっているので、歩ける人には声掛けて行ってもらい。運営推進会議で近隣の方から協力を取り付け、意見も出してもらっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者をお客様と捉え、慣れによる友達口調や上からの口調にならないよう気を付けている。また、個人情報についても職員間でむやみに話さないよう留意し、申し送時も利用者の耳に触れないよう配慮している。また、おむつ交換時やトイレの際はドアを閉めるなど配慮している。	職員はNGワードを決め2ヶ月に一度反省している。申し送りの記入や個人情報を職員間で話すときは利用者の耳に届かない所で行うなどの配慮をしている。新しい職員には経験者がお手本を示すが、できていない時には先輩職員やフロアリーダーが注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望等、意思表示が出来るよう問いかけをしている。言葉が出せない方には筆談や表情から想いを汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常会話や様子から一人ひとりのペースを把握し、居室で過ごしたい方、リビングで皆と過ごしたい方、散歩に行きたい方、独りで過ごしたい方には無理強いないよう個々のペースや希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回訪問美容室を利用し、カラーリングを行う方もいる。外出の時や行事の際は、特におしゃれが出来るよう服を選んだり、お化粧をしたり、マニキュアを塗るなど支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好き嫌いや禁食を把握している。嚥下の悪い方や歯のない方には、お粥や刻み食を提供。年1回お寿司屋さんが訪問し目の前で握ってくれている。また、食事がより楽しい時間となるよう簡単な調理や盛り付けを手伝って頂いている。	毎日食材が届けられ、事業所で調理し、食感をそそるいい香りが漂うよう工夫している。利用者は、調味料やおやつのお買い物、食器ふきに力を発揮している。利用者の食事の希望を反映している。行事食やお弁当持参の花見は食事を楽しむものにしていく。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量やカロリー制限のある方に対しては小さい器を使用し、見た目にも量が気にならないよう工夫している。水分量は1日1200cc以上を目安にコップの大きさを統一して管理しやすいう工夫している。水分量が足りない方には、その方の飲みやすい飲み物で補給して頂いている。		

静岡県(のどかの家熱海 花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な訪問歯科の往診により口腔内の健康に気を付けている。毎食後、自分で出来る方は自分で歯磨きを行っており、磨き残しのある方や介助の必要な方は職員にて行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握し時間の間隔を開けないことで、排泄の失敗やおむつの使用を減らしている。夜間おむつの方も日中はトイレ誘導しトイレで排泄できるよう支援している。	利用者それぞれに合わせて自立してもらえるように、声掛けや見守りを工夫している。トイレの表示の位置を車いすの利用者でも解りやすいように工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食の前に野菜ジュースや牛乳を飲んでいただき腸の働きを良くしたり、腹部マッサージを行う等個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者一人ひとりが入りたいと思う時間を聞き、遅い時間でも可能な限り対応している。また、シャンプーや入浴剤など好みの物を使用することも可能。菖蒲湯やゆず湯等季節を感じて頂く等、入浴を楽しむ支援をしている。	入居時からしばらく拒否が続いた利用者には、担当を変えたり声掛けの工夫で入ってもらえるよう根気よく対応をしている。希望の入浴時間や入浴剤などの使用で楽しめる工夫をしている。菖蒲は職員が用意して季節湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、なるべく活動し夜ぐっすり眠れるよう支援している。食後や体操の後横になりたい方は居室で休んで頂く等適度に昼寝の時間も取り入れている。また、夜眠れない方には温かい飲み物を飲んで頂く工夫もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに薬の説明書をファイリングし、薬の目的や副作用、用法や用量について把握している。また、薬の事故防止の為、配薬・服薬時には職員2名にて確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の中で、散歩が習慣だった方には散歩、外食をしていた方には外食の機会、字を書く事が得意とする方には献立を書いて頂く等その方が張り合いや喜びのある生活が送れるよう支援している。		

静岡県(のどかの家熱海 花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩では、天気の良い日は少し遠くまで歩き風景を楽しんだり自然を感じて頂いている。また、家族と一緒に食事に出掛けたり自宅に行かれる場合もある。町内会のバス旅行や熱海の花火大会等普段行かないような場所へも出掛け、本人の希望に沿った支援をしている。	散歩は歩行が困難な利用者も近くの駐車場まで車いすで出かける等、外気浴を楽しんでいる。少人数でドライブし日頃は出かけられない景勝地を回っている。家族や地域の人達と協力して出掛ける取り組みが今年ではできていない。	職員体制が整わないとなかなか対応できないが、家族や地域の人との協力を得て出掛けられるよう希望する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の管理能力を考え可能な方は所持して頂き買物に出掛けた際、本人に支払いをして頂いている。本人が普段は所持していない場合でも買物に出掛けた際、支払の時に本人にお金を渡し支払いをして頂くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの電話や手紙の取次はいつでも行っている。本人自らが希望があればいつでも可能である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然に囲まれている為、窓からの採光も眺めも良く、外を見て季節を感じて頂ける。リビングはテレビやソファを置きゆったりくつろげる空間となっている。トイレ、風呂場は利用者が分かりやすいよう配慮し、毎日掃除を行い清潔に心掛けている。	温度や湿度は計器を使って対応している。窓から自然の素晴らしい景色が楽しめるのでお花の好きな人には眺められる席に座ってもらっている。本好きな利用者のために取りやすい位置に本を置き、壁には利用者の作品を飾り、利用者の好きな音楽を流している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	男性、女性同士の座席や気の合う方同士の座席の配置等工夫している。また、1階と2階はいつでも行き来出来る環境にある。独りで過ごしたい方はソファで過ごされたり、別にテーブルを置き過ごされる場合もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れた馴染みの物を持ち込んで頂き、安心して暮らして頂けるよう心掛けている。また、家族との写真を飾られている方や好きなお花や切りぬきを飾られている方もおり本人が心地よく過ごせるよう工夫している。	居室の入り口に名前と花の印が付いていて、間違えない工夫をしている。居室には花の写真や新聞記事を貼ったり、塗り絵の作品や家族写真を掲げている。転倒防止に敷物を工夫したりベッドの位置を考えている。家族にお願いして加湿器が置いてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは車椅子の方でも分かるよう低い位置にも表示している。また、居室内での行動を制限しない為に万が一転んでも、大事に至らないよう床にクッション性のあるマットを敷く等工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290500061		
法人名	一般社団法人 のどか		
事業所名	グループホーム のどかの家 熱海 星ユニット		
所在地	静岡県熱海市泉415-169		
自己評価作成日	平成28年3月5日	評価結果市町村受理日	平成28年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成28年 4月 5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・施設に入る前の暮らしや習慣や楽しみなどが続けられるような環境づくりを心掛け、自分らしく暮らせるよう支援している。 ・勉強会の年間計画を立て毎月職員が二人一組となって担当し、質の向上に努めている。 ・2ヶ月に1回の運営推進会議では近所の方の出席が多く、日頃の運営にも協力的である。 ・地域の行事や活動に積極的に参加し、地域の方との交流を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念はいつでも確認出来るようリビングに掲げ共有している。「食事・入浴・排泄」について具現化したマニフェストがあり実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には近所の方も参加して下さり利用者の状況を把握して頂いている。また、積極的に地域の行事や活動に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトの職員による「認知症サポーター養成講座」を地域の小学生向けに実践している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、事故報告や研修報告を行う他、利用者の日常の様子や行事の様子等をスライドショーにまとめ報告している。また、その場での意見をサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらっており、施設の状況を報告している。生活保護受給者の担当者には毎月の手紙と新聞を届け利用者の様子を伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催し身体拘束について正しく理解し玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる。また、言葉による拘束についても理解し「NGワード」を設定することにより意識している。		

静岡県(のどかの家熱海 星ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開催し高齢者虐待について理解を深め未然に防ぐよう努めている。また、虐待防止マニュアルを施設に設置し周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を開催し制度に関する理解や学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者や家族の不安や疑問点を伺いながら十分な説明を行い理解・納得された上で締結している。要望があれば予め契約書を送り、目を通して頂くことも行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所に相談窓口・意見箱を設けて常時要望に応える体制をとっている。また2ヶ月に1回の運営推進会議にて地域の方にも意見を伺い運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議にて職員の意見や提案を管理者に伝えている。管理者は月1回の管理者会議にて代表者に伝えることができる。また、職員相談用メールを設置して発言しやすい環境を整えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社としてキャリアパス、人事考課制度を導入して管理者や職員個々の努力、実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働ける環境整備に努めている。また、産休育休の取得及び職場復帰などを積極的に推奨している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の研修施設にて入社時研修、2年目研修、管理職研修とキャリアに合わせた研修を実施。また、eラーニングを取り入れ職員一人ひとりのトレーニングを実施している。		

静岡県(のどかの家熱海 星ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、協会主催の研修等に参加している。また、地域の事業所連絡会に参加して情報交換等を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には管理者や計画作成担当者が本人と面談して、不安なことや要望等を伺いながら本人に安心して頂けるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には管理者や計画作成担当者が家族と面談して、不安なことや要望等を伺い安心して頂けるような関係づくりを心掛け、要望には可能な限り応えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前情報を確認し必要であれば本人、家族に再度確認をとりながら、本人の希望していることを見極め、その方に合ったサービスを提供出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は共同生活、集団生活を意識して生活に必要な掃除、洗濯をはじめ本人が無理なく出来る役割を持つて頂けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には本人との昔の楽しい思い出などを伺い、本人とのコミュニケーションに活かしている。面会の時には本人と家族が一緒に写真を撮り居室に飾るなどして絆を大切にしている。また、家族の存在が本人にとって一番であると伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人との面会や外出はいつでも出来るようにし、手紙や電話の希望があれば対応している。馴染みの場所に行きたいという希望があれば可能な限り対応できる環境にあり、本人が馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。		

静岡県(のどかの家熱海 星ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	団欒の場所を提供し談笑されたり、共同作品を作る機会を提供する等、様々な場できっかけ作りをしている。また、生活の中で利用者同士で家事を行ったり、外出する支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、入所中に撮った写真をお渡ししている。その後は特に必要がなければこちらからの取組みはないが、本人・家族からの相談等あれば対応する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントのみではなく、日頃の会話や様子の変化等にも気を配りその方の希望や意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には本人や家族と面談し、その方の生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等情報を得るようにしている。これまでのサービス利用の経過については担当ケアマネに情報提供を依頼し把握している。入居後も分からない事があればその都度相談している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりに担当の職員がおり、カンファレンス等で状況を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に希望や要望等を伺い必要時には主治医や看護師の意見も聞いて担当者会議で共有し、本人・家族の希望を取り入れた介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や日報、申し送りにて日々の様子や状況の変化について共有しケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		

静岡県(のどかの家熱海 星ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診とは別に受診の希望のある方、入院されている家族への面会、知人宅へ遊びに行きたい、毎日歩きたい等、本人の「〇〇したい」に柔軟に応えられるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や活動に参加し地域の方との関わりを持っている。また、2ヶ月に1回の運営推進会議に地域の方へ出席して頂き、施設や利用者について理解して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の全員往診のほか個別往診がほぼ毎日ある為、医師が訪問しておりいつでも相談できる環境にある。皮膚科も必要に応じて対応している。緊急時にはオンコール対応により指示を仰いでいる。また、毎月の往診・受診報告を家族に手紙と一緒に送っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を週1回配置し健康管理を行っている。看護記録にて介護職員との情報の共有を行い、急な体調変化が起きた際も看護師に連絡し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	着替えの交換などで面会に行き、本人の状態の把握に努め安心して治療できるよう、早期退院できるよう支援している。また、退院後の生活について相談等行い施設に戻られても安心した生活が送れるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期について施設の指針を説明し同意を得ている。状態の変化に応じて主治医より本人、家族への説明を行った上で職員や関係者で終末期に向けた方針を決め取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを常備しており、いつでも確認できる。防災訓練や勉強会を通して職員のスキルアップを図っている。また、職員は個々に救急救命講習に参加しフィードバックしている。		

静岡県(のどかの家熱海 星ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施し参加できなかった職員に対しては報告書にて把握している。また近所の方にも訓練に参加して頂いたり、地域の訓練にも参加している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者をお客様と捉え、慣れによる友達口調や上からの口調にならないよう気を付けている。また、個人情報についても職員間でむやみに話さないよう留意し、申し送りも利用者の耳に触れないよう配慮している。また、おむつ交換時やトイレの際はドアを閉めるなど配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望等、意思表示が出来るよう問いかけをしている。言葉が出せない方には筆談や表情から想いを汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常会話や様子から一人ひとりのペースを把握し、居室で過ごしたい方、リビングで皆と過ごしたい方、散歩に行きたい方、独りで過ごしたい方には無理強いないよう個々のペースや希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回訪問美容室を利用し、カラーリングを行う方もいる。外出の時や行事の際は、特におしゃれが出来るよう服を選んだり、お化粧をしたり、マニキュアを塗るなど支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好き嫌いや禁食を把握している。嚥下の悪い方や歯のない方には、お粥や刻み食を提供。年1回お寿司屋さんが訪問し目の前で握ってくれている。また、食事がより楽しい時間となるよう簡単な調理や盛り付けを手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量やカロリー制限のある方に対しては小さい器を使用し、見た目に量が気にならないよう工夫している。水分量は1日1200cc以上を目安にコップの大きさを統一して管理しやすいよう工夫している。水分量が足りない方には、その方の飲みやすい飲み物で補給して頂いている。		

静岡県(のどかの家熱海 星ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な訪問歯科の往診により口腔内の健康に気を付けている。毎食後、自分で出来る方は自分で歯磨きを行っており、磨き残しのある方や介助の必要な方は職員にて行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握し時間の間隔を開けないことで、排泄の失敗やおむつの使用を減らしている。夜間おむつの方も日中はトイレ誘導しトイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食の前に野菜ジュースや牛乳を飲んでいただき腸の働きを良くしたり、腹部マッサージを行う等個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者一人ひとりが入りたいと思う時間を聞き、遅い時間でも可能な限り対応している。また、シャンプーや入浴剤など好みの物を使用することも可能。菖蒲湯やゆず湯等季節を感じて頂く等、入浴を楽しむ支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、なるべく活動し夜ぐっすり眠れるよう支援している。食後や体操の後横になりたい方は居室で休んで頂く等適度に昼寝の時間も取り入れている。また、夜眠れない方には温かい飲み物を飲んで頂く工夫もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに薬の説明書をファイリングし、薬の目的や副作用、用法や用量について把握している。また、薬の事故防止の為、配薬・服薬時には職員2名にて確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の中で、散歩が習慣だった方には散歩、外食をしていた方には外食の機会、字を書く事が得手とする方には献立を書いて頂く等その方が張り合いや喜びのある生活が送れるよう支援している。		

静岡県(のどかの家熱海 星ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩では、天気の良い日は少し遠くまで歩き風景を楽しんだり自然を感じて頂いている。また、家族と一緒に食事に出掛けたり自宅に行かれる場合もある。町内会のバス旅行や熱海の花火大会等普段行かないような場所へも出掛け、本人の希望に沿った支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の管理能力を考え可能な方は所持して頂き買物に出掛けた際、本人に支払いをして頂いている。本人が普段は所持していない場合でも買物に出掛けた際、支払の時に本人にお金を渡し支払いをして頂くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの電話や手紙の取次はいつでも行っている。本人自らも希望があればいつでも可能である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然に囲まれている為、窓からの採光も眺めも良く、外を見て季節を感じて頂ける。リビングはテレビやソファを置きゆったりくつろげる空間となっている。トイレ、風呂場は利用者が分かりやすいよう配慮し、毎日掃除を行い清潔に心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	男性、女性同士の座席や気の合う方同士の座席の配置等工夫している。また、1階と2階はいつでも行き来出来る環境にある。独りで過ごしたい方はソファで過ごされたり、別にテーブルを置き過ごされる場合もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れた馴染みの物を持ち込んで頂き、安心して暮らして頂けるよう心掛けている。また、家族との写真を飾られている方や好きなお花や切りぬきを飾られている方もおり本人が心地よく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは車椅子の方でも分かるよう低い位置にも表示している。また、居室内での行動を制限しない為に万が一転んでも、大事に至らないよう床にクッション性のあるマットを敷く等工夫している。		